

## 主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 44

### ヘブル人への手紙において（4）

救いのキャプテンまた先駆者は、  
幕の内側に入ることと営所の外に出ることによって、  
多くの子たちを栄光へ導き入れる  
聖書：ヘブル 2:10-11. 6:19-20. 13:13

#### I. 神の永遠の目標は、多くの子たちを栄光へもたらすことです：

- A. 神はご自身の栄光のためにわたしたちを創造し、形造り、造りさえしました。神の栄光は神の表現であり、表現された神です。わたしたちが神にささげることのできる最高の奉仕は、栄光の中で彼を表現することです——イザヤ 43:7. I コリント 6:20. 10:31. II コリント 3:8-9, 18. 4:1, 5. 出 40:34。
- B. 神の永遠の定められた御旨とは、彼の贖われた民を通して、団体の方法でご自身を表現することです——創 1:26. エペソ 3:16-17 前半, 21。
- C. 神の栄光を持つ新エルサレムは、神の団体の表現です：
1. 光としての神は、ともし火としての小羊の中で、またともし火としての小羊を通して輝き、最終的に都全体を通して輝き、都に神ご自身の外観を帯びさせます——啓 21:10-11, 18. 21:23. 4:3。
  2. わたしたちは新エルサレムを見つめるとき、神の表現、すなわち光がともし火の中で碧玉を通して輝くことを見ます。
- D. キリストは、わたしたちを栄光へ入れる完全な救いのキャプテンです——ヘブル 2:3, 10：
1. イエスは神聖な栄光の種であり、地に落ちて死に、成長して、復活において栄光の中で開花しました——ヨハネ 12:23-24. ルカ 24:26. I コリント 15:36, 43 前半。
  2. 彼が成長することによって、彼の人性と彼の人の性質を含む彼の全存在は、神の栄光の表現の中へともたらされました。
  3. 彼は「栄光の中にある人」、すなわち神の表現の中にある人であって、神の表現、神の栄光である人でさえあります——詩歌、383 番。
- E. キャプテン、開拓者、先駆者（ヘブル 6:20）として、キリストは率先して栄光に入り、彼に従うわたしたちたちは同じ道を取って、神がわたしたちのために定めた同じ栄光にともたらされつつあります——I コリント 2:7. I テサロニケ 2:12。
- F. 救いのキャプテン、栄光の中にある人、神の栄光である人は、わたしたちの内にある栄光の種です——コロサイ 1:27. I ヨハネ 3:9：
1. わたしたちの救い主は率先して戦い、栄光に入りました。彼の生涯は栄光のために戦う過程でした——ルカ 12:49-50。
  2. わたしたちの内にある栄光の種の成長は、戦いの過程です。

3. 栄光とは、神聖な要素がわたしたちの内側から開花することです。
4. わたしたちが入る栄光は、わたしたちの中へと種としてまかされている神聖な要素の栄光です——Ⅱテサロニケ 1:10。
- G. わたしたちは苦難の過程を通して、神の表現である栄光の中へと救われます。わたしたちのすべての苦難はわたしたちを助けて、シオンへの大路を歩かせ、わたしたちを栄光から栄光へと造り変え、わたしたちを彼の栄光の花嫁とさせます——ヘブル 10:32-35. Ⅱコリント 4:16-18. 詩 84:5-7. Ⅱコリント 3:18. ローマ 8:17-18, 21。
- H. わたしたちの救いのキャプテンとしてのキリストは、わたしたちのために祈り、神をわたしたちの中へと供給するわたしたちの大祭司であることによって彼の職務を果たして、わたしたちを栄光の中へ導き入れます——ヘブル 2:16-18. 7:25. 8:2。
- I. わたしたちの救いのキャプテンとしてのキリストは、聖別を通して多くの子たちを有機的に救うことによって、彼らを栄光、すなわち神の団体の表現へと導き入れます。この神聖な聖別は、わたしたちの霊の中にある聖別する霊によって遂行されます—— 2:10-11. エペソ 1:4-5. Ⅰテサロニケ 5:23. ローマ 5:10. 15:16. エペソ 5:26 :
1. 神聖な子たる身分のための神聖な聖別は、神聖なエコノミーの中心であり、新約における啓示の中心思想です。
  2. 神聖な聖別は、神聖なエコノミーを遂行することにおける保持する路線であり、わたしたちを神聖に「息子化」し、わたしたちを神の子たちとします。それはわたしたちが（神格においてではなく）神の命において、また神の性質において神と同じになって、神の表現となるためです：
    - a. 探し求める聖別、すなわち初期の聖別は、悔い改めへと至らせるためであり、わたしたちを神へと連れ戻します——Ⅰペテロ 1:2. ルカ 15:8-10, 17-21。
    - b. 贖う聖別、すなわち地位上の聖別は、キリストの血によるものであり、わたしたちをアダムからキリストの中へと移し入れます——ヘブル 13:12。
    - c. 再生する聖別、すなわち性情の聖別の開始は、わたしたちの霊からわたしたちを更新し、わたしたち罪人を神の子たちとさせます——Ⅱコリント 5:17. ヨハネ 1:12-13。
    - d. 更新する聖別、すなわち性情の聖別の継続は、わたしたちの思いからわたしたちの魂のすべての部分まで、わたしたちの魂を更新し、わたしたちの魂を神の新創造の一部分とさせます——ローマ 12:2 後半. エペソ 4:23。
    - e. 造り変える聖別、すなわち日ごとの聖別は、キリストの要素をもってわたしたちを新陳代謝的に再構成し、わたしたちを新しい構成とさせ、キリストの有機的なからだの一部分とします——Ⅰコリント 3:12。
    - f. 同形化する聖別、すなわち形づくる聖別は、わたしたちを栄光のキリストのかたちに形づくり、わたしたちをキリストの表現とさせます——ローマ 8:28-29. Ⅱコリント 3:18。
    - g. 栄光化する聖別、すなわち究極的に完成する聖別は、わたしたちの体を変貌させることによって、わたしたちの体を贖い、わたしたちを栄光の中でキリストの満ち満ちた表現とさせます——ピリピ 3:21. ローマ 8:23。

Ⅱ. ヘブル人への手紙の目標と究極的な結論は、わたしたちが幕の内側に入り、営所の外に出ることです——ヘブル6:19-20. 13:13. 詩歌414番：

A. 幕の内側に入ることは、主が栄光の中で御座に置いておられる至聖所に入ることを意味します。営所の外に出ることは、主を拒絶し追放した宗教から出てくることを意味します：

1. 営所は宗教の組織を表徴し、それは地的であり、人に属するものです。
2. あらゆる宗教は人の組織また地的な領域であり、人々を神のエコノミーから遠ざけます。

B. わたしたちは経験的に言えば、実際の至聖所が今日あるわたしたちの霊の中にいなければならず、また実際の営所が今日ある宗教の外にいなればなりません：

1. わたしたちは霊の中にいて、天のキリストを享受すればするほど、ますます宗教の営所の外に出て、苦難を受けたイエスに従っていきます。
2. わたしたちは霊の中にとどまって、栄光の中におられる天のキリストに触れれば触れるほど、ますます宗教の営所から出て、卑しめられたイエスへと行き、彼と共に苦しむでしょう。
3. 真の新約の務めは、わたしたちの霊の中の、幕の内側のキリストの享受にわたしたちをもたらします。そしてわたしたちを強めて、キリストのからだのための彼の苦難の交わりの中で、営所の外にいるイエスに従っていかせます —— II コリント 11:2-3, 23-33。
4. 幕の内側で、わたしたちは天のキリストの務めにあずかります。それによってわたしたちは装備されて、営所の外にいる渇いている霊に彼を供給します。

C. 幕の内側に入ることは、わたしたちの霊の中へと入り込むことです。わたしたちは霊に戻り、霊を活用するとき、幕の内側に入ります —— I テモテ 4:7-8：

1. わたしたちは、自分の霊を燃え立たせ、思いを霊に付け、霊と魂を識別することによって、霊を活用し、用い、使用しなければなりません —— II テモテ 1:6-7. ローマ 8:5-6. ヘブル 4:12。
2. わたしたちは幕の内側に入るために霊を活用しなければなりません。それはわたしたちが直接、栄光の中にある人である天のキリストと接触し、彼を見つめて注入され、浸透されて、彼の団体の複製となるためです —— II コリント 3:18。
3. 幕の内側にいることは、至聖所の中にいることです。その領域の中で、わたしたちはキリストにあずかり、彼を隠されたマナ、芽を出した杖、命の法則として享受し、それは神の団体の表現をもたらし、彼の永遠の定められた御旨を成就します —— ヘブル 9:3-4。

D. イスラエルの子たちが金の子牛を拝んだ後、モーセは営所の外の場所に移動し、主を求める者はみなそこに行ってモーセと共に集会しました。なぜなら、主の臨在も語りかけも、そこにあったからです —— 出 33:7-11. 参照、民 12:6-8：

1. わたしたちは、金の子牛の偶像の原則、すなわち神の贖われた民によって造られて、彼らを偶像礼拝的な営所とした偶像の原則によって警告を受ける必要があります —— I コリント 10:5-7：
  - a. 自分を美しく見せることは、偶像礼拝につながります —— 出 32:1-3. 33:5-6。

創 35:2-4. 参照、出 28:2. イザヤ 60:21。

- b. 偶像礼拝は、神がわたしたちに与えたものをサタンが不法に用いて、それを浪費させることです。それはわたしたちが、神が与えてくださったものを乱用し、神の賜物を、物質的なものも霊的なものも、神の定められた御旨のために用いないことです。
  - c. 偶像礼拝は、わたしたちが享受しているものを礼拝すること、享受、楽しみ、娯楽を礼拝することです —— 出 32:6, 18-19. 参照、詩 36:8-9。
  - d. 偶像礼拝には、真の神を礼拝しているという見せかけがあります —— 出 32:4-6. 列王上 12:26-30。
  - e. 偶像礼拝には、礼拝することにおける混合があります —— 出 32:4-6, 21-24。
2. モーセは主の臨在がもはや民の間になことを認識したので、自分の天幕を移して、営所から離れた所に張りました。すると、彼の天幕は神の天幕となりました —— 33:7。
3. 営所は宗教的な人々を表徴します。彼らは名目上は主に属していますが、実は偶像を礼拝し、主ご自身以外の何かを礼拝し、追い求めています。
4. モーセが自分の天幕を移して偶像礼拝的な営所から離れた時、人が自分の仲間に語るように、主は顔と顔を合わせて彼に語りました —— 33:11 :
- a. 神とモーセは仲間、同僚、パートナーであり、偉大な事業の中で同じ職業に携わり、共通の権益を持ちました。
  - b. モーセは神と親密であったので、神の心を知り、神の心にしがたっており、神の心に触れることのできる人でした。
  - c. わたしたちは幕の内側に入り、偶像礼拝的な営所の外に出て、主との最も近くて最も親密な関係を持つ必要があります。それは、わたしたちが神と共通の権益にあずかる人、また神に用いられて、地上での神の事業を遂行する人となることのできるためです。

© 2011 Living Stream Ministry